

保健の授業で育成される資質・能力に関する一考察

－生徒の自覚するエージェンシーについて－

○丸山 実花（お茶の水女子大学附属高等学校）

キーワード：新学習指導要領、資質・能力、コンピテンシー、エージェンシー

1. 背景・目的

お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所（以下 ICD）では ICD コンピテンシーとして 10 の資質・能力の構成要素を定義している。その中で「エージェンシー」は「社会に変革を起こす力。社会の一員として、社会がより良くなるよう考え、行動していくこと」と定義されており、その育成も見据えて保健の授業を行っている。

佐藤(2023)は健康教育と資質・能力の育成との関連について考察し、保健の授業を通してエージェンシーの向上につながる機会が少ないとしたが、丸山・佐藤(2023)では、生徒の記述からエージェンシーの育成を生徒自身で自覚していることが示唆された。レポートやスクラップノートの作成、グループ発表という学習形態のほか、授業内容そのものがエージェンシーに関連しており、知識や思考のレベルが自在に使える段階になっている可能性が考えられた。

そこで本研究では、生徒からみた保健の授業を通して育成された「エージェンシー」に焦点を当て、育成の具体的な取り組みを検討することを目的とする。また、ICD コンピテンシー以外で生徒が自覚する資質・能力を検討する。

2. 方法

高校 1 年生女子 126 名（2022 年度）と高校 1 年生女子 108 名（2023 年度）の計 234 名に、保健の授業が終わる各 3 学期末（2～3 月）に、今年度の保健の授業を振り返り、身についたものや意識したことについてそれぞれの ICD コンピテンシーをキーワードとして記述してもらった。2023 年度のみ、ICD コンピテンシー以外で身に付いた力に名前を付けてもらい、理由と共に記述してもらった。それらの記述内容を学習形態・内容ごとに分類して、検討した。

3. 授業概略

授業計画・内容は佐藤（2023）を参照された。ただし、今回分析対象の授業担当者は丸山で

あり、取り組みに多少の差はある。

4. 結果・考察

「エージェンシー」について、125 名（2022 年度 70 名、2023 年度 55 名）の記述がみられた。

学習形態について、2023 年度はグループ発表やその発表で用いたノート作成により育成されたと回答する生徒が多かった。発表を聞いたまとめノートに①キーワード②得た知識・わかったこと③自分や周囲の生活に活かそうなこと④実際に行動したことの欄を設けたことで、自分自身や社会に目を向けることになり、日常生活の振り返りつながっていったことが考えられる。またループリック評価を用いたことで、生徒が何を目指してグループ活動を行っていくかが明確化されたことも影響を与えた可能性がある。

記述内容としては『私たちは大きな力を持っていないが～』などという枕詞がつくものの、自分自身や周囲を変えていこうとする意識や行動の変化を挙げる生徒が多かった。単に知識を理解しただけではなくて、知識を使えるようになっているために記述されたものであり、現実の問題に対応できる・しようとする資質・能力が形成されていることが示唆された。

しかし生徒の「エージェンシー」自体に認識のばらつきが散見されたため、今後検討していきたい。また、生徒は「学びを生活に活かす力」「行動力」「質問力」のような資質・能力の育成も自覚しており、ICD コンピテンシーによらない保健の授業での能力育成について検討してみたい。

5. 主な参考文献

佐藤健太(2023)コンピテンシー・ベースにおける保健で伸ばすべき資質・能力とは－10 年の歩みを振り返って－. お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要 68. 67-82

